

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

「現場や地域の実情に即したがん治療と並行する緩和ケア」の実装戦略の開発

研究分担者 島津 太一 国立研究開発法人 国立がん研究センター・室長
研究協力者 采野 優 京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学講座
西村 真由美 京都大学大学院 医学研究科 健康情報学分野
宮崎 貴久子 京都大学大学院 医学研究科 健康情報学分野
中山 健夫 京都大学大学院 医学研究科 健康情報学分野

研究要旨

本研究の目的は、研究班全体の目的の一つである「①『現場や地域の実情に即したがん治療と並行する緩和ケア』モデルの実装に係わる方策・実装戦略の開発」に向けて、『現場や地域の実情に即したがん治療と並行する緩和ケア』モデルとして有望なモデルを明らかにすることである。

初年度に行った調査により、がん患者の生活の質を向上させるケア提供（ケアデリバリー）方法として、新たな革新的な技術を用い、①患者自身の問題解決能力を高め、②患者の苦痛・苦悩を適切にモニタリングし、医療者の負担の軽減と、患者の適切な行動変容の推進、難治性・緊急性のある苦痛・苦悩に対して医療資源を集中するケア提供体制の構築が望ましいと考えた。すなわち、医療資源の不足を補う方策として研究班として上記の①、②の開発および実装の課題を明らかにし、新たなケアデリバリーモデルを研究班として提案する方針とした。

本分担研究では、②患者の苦痛・苦悩を適切にモニタリングとして、昨今のヘルスケアIT分野の潮流やPRO（患者報告アウトカム）の重要性が強調されていることを踏まえ、ePROによる症状モニタリング・スクリーニング手法を開発・実装し、その実装に係る課題、特にその持続可能性に係る課題を質的に明らかにすることとした。よって、本研究の目的は、ePROシステム実装における、その阻害・促進要因を明らかにすることである。

ePROの実装に係わった医師・看護師13名に対して、インタビュー調査を行った。ePROシステムの実装には、医療資源だけでなく、医療機関内の文化などの内的な要因、信念や態度など個人的な要因、その診療報酬などの外的な要因が複合的に関与することが明らかになった。これらの要因をもとに、より効果的な実装戦略の開発が望まれる。

A. 研究目的

初年度に行った、がん患者の生活の質を向上させるケア提供（ケアデリバリー）方法で、科学的に効果が実証されている介入方法に係る調査をもとに、新たな革新的な技術を用い、①

患者自身の問題解決能力を高め、②患者の苦痛・苦悩を適切にモニタリングし、医療者の負担の軽減と、患者の適切な行動変容の推進、難治性・緊急性のある苦痛・苦悩に対して医療資源を集中するケア提供体制が望ましいと考え

た。すなわち、医療資源の不足を補う方策として研究班として上記の①、②の開発および実装の課題を明らかにし、新たなケアデリバリーモデルを研究班として提案する方針とした。

本分担研究では、②患者の苦痛・苦悩を適切にモニタリングとして、昨今のヘルスケアIT分野の潮流やPRO（患者報告アウトカム）の重要性が強調されていることを踏まえ、ePROによる症状モニタリング・スクリーニング手法を開発・実装し、その実装に係る阻害・促進要因に係る課題を質的に明らかにすることとした。

B. 研究方法

ePROシステムの概要は、他研究分担者（中島貴子）報告書を参照とし、その実装に係る阻害・促進要因を同定する手法を記載する。

事前に作成されたインタビューガイドに基づき、ePROの実装に係わった医師・看護師を対象にインタビューを行った。インタビューガイドは、CFIRフレームワークに基づき作成され、演繹的なアプローチをとった。サンプリングは、合目的的サンプリングを行い、理論的飽和に到達するまでインタビューを行った。インタビューデータに対し、独立した二人の研究者（采野・西村）が記録、データのコード化を行い、似たカテゴリーを集約する内容分析を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）」に則り、研究計画を策定し、「京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会」で審査を受け、承認を得たうえで、遂行中である。

C. 研究結果

ePROの実装に係わった医師・看護師13名に対して、インタビュー調査を行った。主たる阻害要因として、システムの使いやすさや医療現場の人員不足や業務量の多さだけでなく、症状モ

ニタリングに関する医療従事者個人の態度や考え方、症状マネジメントに関する知識の不足、症状モニタリングに関する組織の文化なども同定された。促進因子としては、ステークホルダーによるトップダウンでの実装や保険収載による資金面でのバックアップなどが強力な促進因子として同定された。

D. 考察

ePROシステムの実装には、医療資源だけでなく、医療機関内の文化などの内的な要因、信念や態度など個人的な要因、その診療報酬などの外的な要因が複合的に関与することが明らかになった。今後、質的解析をさらに進め、包括的な阻害・促進要因を明らかにし、適切な医学雑誌に報告する予定である。

E. 結論

ePROシステムの実装には、医療資源だけでなく、医療機関内の文化などの内的な要因、信念や態度など個人的な要因、その診療報酬などの外的な要因が複合的に関与することが明らかになった。これらの要因をもとに、より効果的な実装戦略の開発が望まれる。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし